

## 東ティモールの循環型農業に向けた支援で、 芳賀町が東ティモール研修員を受入れます。

(芳賀町による草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)『ゴミを宝に!環の町芳賀モデル』を東ティモールヴィケケ市へ』を通じた技術研修員の受入れ)

この度、ヴィケケ県のグレゴリオ ヘンリケ知事を始め、農業水産局およびカラウバル村の関係者計4名(以下研修員リストをご参照申し上げます)を受入れ、芳賀町の指導・協力の下で、有限会社ドンカメの関係者による技術研修が実施されます。

今回の研修員受入れは、JICA 草の根技術協力事業の一環として、本年5月30日(火)から6月13日(火)までの15日間にわたり、環の町芳賀において、環境対策、有畜農業および稲作の一連の流れを学ぶことを目的に実施されます。芳賀町の滞在期間中は、芳賀中学校や小学校の児童生徒との交流も行う予定です(草の根技術協力事業とは、地方公共団体などがこれまで培ってきた経験や技術を活かし、弊機構が開発途上国への協力活動を支援し、共同で実施する事業です)。

この草の根技術協力事業は、2014年度に栃木県芳賀町から弊機構に事業提案を受け、昨年3月1日より事業を開始しました。東ティモールからの研修員の受入れは、昨年9月の研修員受入れに続き、今回で3回目となります。

この事業は、東ティモールの首都ディリから南東230kmに位置するヴィケケ県ヴィケケ市において、地域住民の生活及び生計向上を目的に実施しています。とりわけ、ゴミのリサイクル等を通じた生活環境の改善とともに、塩水選・温湯消毒技術、育苗等の有機稲作の基本的な技術の普及を通じた稲の収量増加に資する活動を推進するもので、環境問題に積極的に取り組んでいる芳賀町並びに堆肥の生産や有機稲作技術について技術的蓄積を有するドンカメの経験・技術を十分に活用しています。事業期間は2016年3月1日から2018年3月31日までの約2年間となります。

JICA筑波では、草の根技術協力事業をはじめ、地域の国際化に貢献すべく、地域発の様々な国際協力事業に取り組んでおります。

つきましては、芳賀町における技術研修につきまして取材いただけます場合は、事前にJICA筑波の金子までご連絡いただければ幸いです。

**【東ティモール研修員リスト】**

研修員氏名	所 属	役 職
グレゴリオ ヘンリケ (Mr. Gregorio Henrique)	総務省	ヴィケケ県知事
カルロス ピント (Mr. Carlos Pinto)	農業水産省	ヴィケケ県担当局長
ジョアオ ピント (Mr. Joao Pinto)	ヴィケケ県ヴィケケ市カ ラウバル村	カラウバル村村長
ダニエル アマラル (Mr. Daniel Amaral)	農業水産省	農業普及員 (ヴィケケ県ヴィケケ 市ルカ村担当)

**<参考資料>**

- (1) 東ティモール研修員の芳賀町における活動計画
- (2) “「ゴミを宝に！環の町芳賀モデル」を東ティモールヴィケケ市へ”の概要

**【 本件連絡窓口】**

JICA筑波 研修業務・市民参加協力課 担当者：金子 健二

E-mail : [Kaneko.Kenji@jica.go.jp](mailto:Kaneko.Kenji@jica.go.jp)

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6 TEL : 029-838-1117 FAX : 029-838-1790

## 参考資料(1) 東ティモール研修員の芳賀町における活動計画

目的： 標記草の根技協関係者を研修員として日本に受入れ、芳賀町における環境対策・農業技術・堆肥化技術についての見学や実習を行うことで、今後の現地での活動の推進を図る。

研修期間： 2017年5月30日～2017年6月13日 (計15日間)

研修場所： 栃木県芳賀町

	月日	曜日	活動内容	宿泊先
1	5/30	火	15:25 東ティモール/デイル発 (MI295) チャンギ国際空港 (シンガポール) 着/シンガポール 発	
2	5/31	水	羽田空港着 栃木県芳賀町へ移動	芳賀町
3	6/1	木	JICA 筑波 訪問 環境研修：エコステーション、小中学校、広域ごみ処理施設、堆肥化施設、ごみの分別、収集、運搬、処理、リサイクル施設 (於：芳賀町)	
4	6/2	金	農業研修：稲作の一連の流れ (塩水選、温湯消毒、催芽、播種-耕起、代掻き、田植え、初期除草、水管理、土づくり (於：爽菜農園、農業法人農村元気はが、帰農志塾、上田農園)	
5	6/3	土	農業研修：田植え (於：爽菜農園)	
6	6/4	日		
7	6/5	月	環境研修：エコステーション、小中学校、広域ごみ処理施設、堆肥化施設、ごみの分別、収集、運搬、処理、リサイクル施設 (於：芳賀町)	
8	6/6	火		
9	6/7	水	農業研修：稲作の一連の流れ (塩水選、温湯消毒、催芽、播種-耕起、代掻き、田植え、初期除草、水管理、土づくり (於：爽菜農園、農業法人農村元気はが、帰農志塾、上田農園)	
10	6/8	木		
11	6/9	金		
12	6/10	土	農業研修 (爽菜農園：初期除草) 研修全般の復習、研修習得技術の発表会	
13	6/11	日		
14	6/12	月	羽田空港 発 (チャンギ国際空港/シンガポール 経由)	
15	6/13	火	チャンギ国際空港 (シンガポール) 着 チャンギ国際空港 (シンガポール) 発 / 14:15 東ティモール (デイル) 着	

### 【主な視察項目】

- ・環境対策：エコステーション、小中学校、広域ごみ処理施設、堆肥化施設、ごみの分別、収集、運搬、処理
- ・有畜農業：爽菜農園、農業法人農村元気はが、帰農志塾、上田農園、
- ・稲作の一連の流れ (塩水選、温湯消毒、催芽、播種-耕起、代掻き、田植え、初期除草、水管理、土づくり)

**参考資料(2) 「ゴミを宝に！環の町芳賀モデル」を東ティモールヴィケケ市へ」の概要**

1. 事業名 「ゴミを宝に！環の町芳賀モデル」を東ティモールヴィケケ市へ～循環型社会・循環型農業のシステム構築及び技術協力事業～

2. 事業の背景と必要性

ヴィケケ市の人口（約7万人）の95%は農家で、主に稲作、畜産、畑作の複合経営である。

東ティモールの現状として、農業における肥料の使用率は、化学肥料の利用農家5%、有機肥料5%、無肥料90%である。東ティモールは有機農業や堆肥作りを推奨しているが進んでいない現状があり、主食作物であるコメの単収は2トン/ha以下（籾ベース）で、国内消費の65%を輸入に依存しており、一方で、耕作放棄地が徐々に増加している。首都ディリでは、ごみの処理対策や子供を含む環境教育が始まっているが、ヴィケケ市ではゴミ処理システムや環境教育なども進展していない。さらに、家庭廃棄物や畜産廃棄物はそのまま投棄している状況で、ゴミの分別、リサイクル及び堆肥化による農業利用も進んでいない。

このような状況を踏まえ、ヴィケケ市のごみ処理や農業の現状に対し、「ゴミを宝に！環の町芳賀モデル」は、家庭廃棄物、畜産廃棄物等の未利用資源の循環システムの構築、堆肥化技術及び有機複合農業技術の普及に無理なく応用できる。

3. プロジェクト目標 ヴィケケ市内のモデル地区において、「ゴミを宝に！環の町芳賀モデル」に基づくシステムや技術を実践する。

4. 期待される成果

- (1) ヴィケケ市に適したエコステーションの考え方が浸透し、住民主導により環境保全活動が行われ、モデル地区の生活環境が改善される。
- (2) 堆肥場においてモデル農民主導により安定的に堆肥の生産が行われる。
- (3) モデル地区において、実証圃場を中心に、循環型有畜複合農業が普及する。
- (4) 「ゴミを宝に！環の町芳賀」の国際協力事業によって、芳賀町民の国際理解が促進され、町の取組みが再認識されるとともに芳賀町が活性化する。

5. 活動

- (1)-① 芳賀町の環境行政、ゴミ処理対策、農業政策及び環境保全システムに関する研修
- (1)-② モデル地区の住民に対する環境保全及び生活環境改善に係る啓発活動の実施
- (1)-③ モデル地区の住民が地域の環境汚染の現状と問題及び対応策の共有を促すための

## 住民参加型ワークショップの実施

- (1)-④ モデル地区におけるエコステーションの設置
- (1)-⑤ モデル地区住民によるエコステーションの定期見回り及び維持管理
- (1)-⑥ クリーンアップ活動の実施
  
- (2)-① 堆肥作りの技術・システム及び堆肥の利活用に関する研修の実施
- (2)-② 堆肥場の設置
- (2)-③ プロジェクト参加農民に対する堆肥作りに係る基本技術の指導及び堆肥塚の普及啓発
  
- (2)-④ モデル地区の農民による鶏糞等の身近な原料を利用した地域に根差した堆肥作りの指導
  
- (3)-① 循環型有畜複合農業に係る本邦有機農家での研修の実施
- (3)-② 実証圃場の設置
- (3)-③ 養鶏を含む循環型有畜複合農業生産技術の指導
- (3)-④ 地域に適した有畜複合農産物の選定及び実証圃場での生産
- (3)-⑤ 農民主導による実証圃場の定期見回り及び維持管理
- (3)-⑥ 生産された農作物の普及活動
  
- (4)-① 広報紙、ケーブルテレビ等による国際協力や国際理解に係る記事や番組の制作
- (4)-② 東ティモールの研修員と芳賀町民の国際交流、及び小中学生の国際理解・国際協力の促進

6. 実施期間 2016年3月～2018年3月

7. 事業総額(概算) 約50,000千円

8. 活動地域

